

めだかの学校だより

平成 16 年 2 月 1 日
第 43 号

学舎：東久留女木新田観音山
「みどりの郷キャンプ場」内
事務局：引佐郡引佐町
東久留女木 472-111
TEL053-545-0381

校長訓話

第四十三回校長 鈴木 哲朗

私は、地域の特産物を生かしたお菓子作りを楽しんでいる。三年前、豊岡村の『英ちゃん農園』の紫芋に出会って以来、その紫芋の美しさに魅了されてしまった。紫芋を使って、美しくて美味しいお菓子ができないか、試作品を作った。伊藤さんにご指導を仰ぎました。紫雲・紫芋チーズケーキ・紫芋レアチーズケーキ・羊羹・モンブラン・アイスクリーム等を作ることができました。

伊藤さんのところへ伺うと、いつも、何人かの『めだか』が互いに研鑽し協力しあっていました。この様子に共感を覚え、仲間



入れていただけないか、お願いをいたしました。『めだかの学校』には三回出席いたしました。好奇心・研究心・向上心・遊びこころの旺盛な人ばかりで、大変刺激になり、勉強になり、エネルギーをいただいたような気がします。退学にならないよう、一所懸命取り組みたいと思っています。今、一番に取り組まなければならないのは、健康管理です。食物

が十分に無かった時代に育ったせいか、飽食するまで食べないと気がすまない遺伝子が強いせい、か、食に対して食欲で、何でもたくさん食べる、そんな生活を続け

てきた。二十年前、糖尿病と診断された。最初の頃は、食事のコントロールによって、簡単に血糖値が正常に戻った。すると、安心して好きなだけ食べる。そんな生活を繰り返しているうちに、血糖降下剤を投薬しても、正常値に戻らず、高値安定になってしまった。

高血糖の状態が長く続くと、全身の血管が障害を起こし、さまざま合併症を引き起こすことになる。分かっているながら、食をコントロールすることは難しい。

一日、千六百キロカロリーに制限し、私の体に組み込まれている、飽食するまで食べる遺伝子と戦い、運動療法も加え、糖尿病を克服したいと思っている。

めだかの学校伝言板

——第 43 回めだかの学校を開校するので出席しなさい。開校日／平成 16 年 3 月 5 日（金）6:20PM より

校長／鈴木哲朗 受付／北野美津子・徳増兼弘・原田憲治

教頭／斉藤敏子 齋藤昭（後見人）

用務員／村木謙次

給食係／本間稔・松本泰榮・加藤修一・藤田吉恭

石野省三・湯浅明美・大谷香代子

今村純子・別所慶則

渡辺三ツ子（チーフ）

<学舎> 静岡県引佐郡引佐町東久留女木観音山

日本ボーイスカウト連盟静岡県支部

観音山緑の郷キャンプ場

TEL なし

<時間割> ~ 自然から学ぶ教育とは何か~

・一時間目／理科「水に流せないよね大人の責務、子どもたちの未来のために」

・二時間目／修身科「原風景にみるガキ大将という名のリーダー」（女の子もいるよ）

・三時間目／家庭科「ガンと闘う！～食べものと自然療法と現代医療」

佐野玲子先生
※給食の時間ー「ひな祭り」～おひな様ごはん？～

めだかの動き

泳ぎ回るめだかたち

■「初春・郷のにぎわい」

泥道用のタイヤに雪を噛ませるよう、ゆっくりと車を走らせた。一月一日、日曜日、佐久間町で開かれた「そばまつり」を見物したあと、浦川、熊を經由して、六郎沢から引佐町洪川のキャンプ場、テントンゴリ洪川に向うためである。浦川から熊への北斜面は、期待したとおり前日降った雪がかなり残っていた。雪道を走る車に乗ったことにより、あまりに家内は怖がった。私と同じく雪国新潟にいたことのある武史君の奥さんや山梨生まれの中川さんは、平気であった。用意していたチェーンを装着するほどではなかったが、久しぶりの雪景色と雪道走行を楽しんだ。そばまつりでもそばを食べたが、せつぱく熊を通ったので、ここでモンブランそばを食べ、午後二時過ぎに洪川に入った。キャンプ場には何台も車が止まっていて、真冬のキャンプ場とは思えない賑わいが感じられた。支配人の伊藤茂男さんが企画した文化屋の最終日である。洪川在住の方を中心に、冬場で空いているコテージを使って、絵や書などの個展を開いているもので、今年で二回目である。

先ず事務所に行つて見た。伊藤さんと石神の里の吉林さんが、何人かで談笑して、我々を歓迎してくれた。コテージエリアの入り口では、「ほいさささ」の方々が、例によって「五平餅」を焼いていた。一番下のコテージの前に車を止めて、上のコテージから見に行つた。最初は、「裂き織」といって、古い着物などを裂いたひも状の布を手織り機で再び織り込んだアートである。元の布の色合いを生かしながら全く新しい模様と形に生まれ変わった壁飾りや暖簾などが展示されていた。作家の方々が、作り方や技法などを丁寧に説明してくれて、自分でもやってみようと思った。次は、伊藤八右さんの日本画である。日展入選画家の伊藤信次画伯の日本画である。だいが前に、お宅に伺ったときに拝見したことがあり、二度目である。今回は、二部屋に亘って、たくさん展示されていた。信次画伯本人がいた。お聞きすれば良かったが、たぶん「おぼろ月夜」を描いた大きな作品が、先生が一番いいとおっしゃっていた。これは、おそらくお宅の周りを描いた風景画と、これも

想像であるが、お嫁さん、すなわち八右さんの奥さんを描いた絵が素晴らしいと思った。普通ならとても無礼で見られる個展ではないが、同行した仲間も皆、ゆっくりと拝見した上に、鈴木計芳さんが作られたという美味しいお茶と、お菓子までご馳走になった。

この他、風景ものからメルヘン調まで、こんなに多彩な押し花アートは、初めて見た。伊藤さんと同じく洪川在住という松本さんの書も素晴らしい。草書や隷書の漢詩の掛軸に加えて、般若心経の軸が二本飾られていて、しばらく見入ってしまった。一番下の棟では、麒麟の展示があった。二メートル近くのもの、麒麟の展示があった。さまざまな形の麒麟が、さまざまに加工されている。さらに出来来えに感心するばかりであった。さらに、みよんどりの洪川の行事や風景の写真展もあり、まだ見たことのないみよんどりを益々見ることができた。鈴木計芳さんと八右さん御夫妻にもお目にかかり、冬の山道を大回りしたかすがあった。

とにかく、洪川は、芸術家村である。まちからの交通は不便で、本格的なギョーラーがあるわけでもないのに、冬のキャンプ場のコテージを生かしながら、素晴らしい山荘風な環境に、失礼ながら、何もなければ忘れ去られてしまいうような山あいの小さな地区が、初春ににぎわい、光り輝いている。これから、町村に合併が進み、一つ一つの地域が存在感が薄くなりがちの中で、一つ一つの地域が輝く地域がたくさん出てきてもらいたいのである。そして、元気な地域がブドウの房(クラスタ)のように、時には競い、時には連携して、豊かな個性とパワーのあふれる一つの圏域を形成していくことが、新しく作られる政令市に期待される姿ではないかと思つた。

(なんでもあり農園小作人の松)

■第20回地域づくり団体全国研修交流会鹿児島大会
地域づくり団体全国研修交流会鹿児島大会が、2月13日(金)13時54分、14日(日)12時まで、鹿児島県始良郡牧園町高千穂で「きばつど」変換つど「未来を」南を考える地域づくりのカタチをテーマに開催される。講師からは、何人かが出席する。だいがの学校のアドバイザー幹事の花井孝メダカ、同幹事の柳原幸雄メダカ、個人で溝口久メダカが参加します。

今回の鹿児島大会の特徴は、全体集会のあると、鹿児島県・川辺・日置・薩摩・出水・始良伊佐・曾於・肝属・熊毛・大島北部・大島南部の12の地区分科会に分散しての研修

と交流が図られることである。パラメダカは第3分科会の川辺「環境が変わる 過去・現在・未来」に出席します。各ブロックとも芋焼酎やうまかもんで盛り上がりそうです。全国の面白い人々と交流して「面白事」をいっぱいお土産に持ち帰ります。お楽しみに!

■第2回全国街道交流会議静岡大会
第2回全国街道交流会議静岡大会が、2月7日(土)13時30分から8日(日)15時までの2日間、富士山町の中央公民館ホールで「街道400年・土川町の中央公民館」新・街道学のスミエ「道」とともに地域を学び地域を愛し、地域を創る」をテーマに開催される。

開会式あとの基調講演では「東海道一東西文化の交流路」と題して、竹内誠東京大教授、松野輝洋藤枝市長をコーディネーターに東と西の両端に「江戸」と「京」という文化の集積地を持つ東海道。東海道が東西交流の役割をどう果たしていたか、大いに語られる。15時15分から分科会、交流会。8日は9時から「道・未来を語ろう」と自由討論形式で前日の分科会の議論を深める。

この交流会には、鈴木武史メダカが実行委員、分科会のコーディネーターに花井孝メダカが参加している。地元富士山町には、天野恵美子メダカ、楠木恵美子メダカがいる。共に富士山町の町づくり委員で活躍している。この会議の模様については、「44回めだかの学校だより」に鈴木武史メダカから報告してもらいます。これまたお楽しみに!

■静岡郡豊岡村では「田舎を創ろうよ」黎明フォーラムⅣ
1月31日(土)13時30分から総合センター研修会館で第4回黎明フォーラム「田舎を創ろうよ」が開かれた。基調講演には地域づくりの首藤勝次さん(大分県湯温泉、大丸旅館経営)の「田舎が見える」国際的視野に立つ村づくりへの挑戦」と題して講演。首藤さんは直入現場職員として商工観光・国際交流などの振興に活躍し、1998年町営温泉保養文化館「御前湯」の初代館長として県内外から多くの観光客を集め、地域づくりの中心人物として知られている。2001年役場を退職し、家業の旅館を経営している。パネルディスカッションでは、鶴田春男村長、地元で活躍している金子祐輔、山田昌人、松松洋一さんがパネラーとして豊岡村を語る。コーディネーターは豊岡村大好きの溝口久メダカ、このフォーラムは、鈴木武史メダカが44回めだかの学校だより」で「田舎のよさ」をたっ

ぶり報告してもらいます。

■シンポジウム「森からはじまる地域づくり 甕れ・北遠」
只今、日本の森林は多くの問題に直面しています。そんな中で私たちは、この天竜川流域の森林を活性化し、つづき森林による環境保全を工夫したあと、特定非営利活動法人グリーン・エコトピア・ネットワークを設立いたしました。2月14日には設立記念シンポジウムを開催いたします。講師は、基調講演を榊原シンジオシステムコンサルタント会長(元京都大学大学院エネルギー科学研究科教授)宮沢達雄氏、森からはじまるフレキシブルライフ「循環型環境社会の構築を目指して」を講演し、パネルディスカッションを、パネラーに龍山村森林組合組合長の青山有一氏、静岡大学教員(農学部人間環境科学科森林共生学研究室主任)小嶋睦雄氏、フオレスト・山光治氏、特定非営利活動法人「グリーン・エコトピア」特定ネットワーク、副代表理事戸田尚男氏、それに宮沢達雄氏の5名。コーディネーターは、三遠南信地域の地域学に造詣の深い、愛知大学大学院院長藤田佳久氏。私たちが暮らすを支えている天竜川も、林業が不振で人の手が入っていない。間伐が進まず、森林の公益的機能が果たせず、山林の荒廃は危機的状況にあります。そこで、天竜川流域の山村村合併を視野に入れ、北遠の森林資源を多面的に高度利用した、森からはじまる新しい地域づくりを目指し、それに対する流域の一体的な取り組み等具体的な提案を期待します。そして、その提案を受けて部会をつくり、実現に向けて研究活動をしていきたいと思っています。今、それぞれの分野に造詣の深いアドバイザーとして登録されている方が24名になりました。皆さんも「この指とまれ」

(本島慎一郎メダカ)

■「湯布院のまちづくり40年と私」
と題して、湯布院五の湯の溝口重平さんが浜松で講演されます。昨年11月18日に放映された「湯布院の里の百年戦争」プロジェクトX「挑戦者たち」の一人として、湯布院町商工会長、第1回観光力リスマで活躍中でした。溝口久めだかの依頼で実現しました。時：2月25日(水)13時16時
場所：静岡文化芸術大学(浜松市野口町)主催：中遠・北遠県行政センター どうぞ、お出掛けください。

湯布院のまちづくり40年と私
と題して、湯布院五の湯の溝口重平さんが浜松で講演されます。昨年11月18日に放映された「湯布院の里の百年戦争」プロジェクトX「挑戦者たち」の一人として、湯布院町商工会長、第1回観光力リスマで活躍中でした。溝口久めだかの依頼で実現しました。時：2月25日(水)13時16時
場所：静岡文化芸術大学(浜松市野口町)主催：中遠・北遠県行政センター どうぞ、お出掛けください。

■ともやんシンガポールだより
シンガポールへ来て一年半、正月はタイの
プーケット空港から車で一時間ほどのリゾート
トへ出かけ、ついでに近くの国立海洋公園へ
のオプショナールツアーに参加してきました。
「灰岩でできた奇岩が点在している場所」と
いう説明を聞いて行ってみたいのですが、エ
ンジン付きの十人乗りくらいの小さなボート
に乗り込んで見たものは、美しいマングル
プの林でした。シンガポールにもマングル
プの林はありますが規模が小さいので、ボ
ートで行っても新鮮で美しいものでした。
にある風景はとも新鮮で美しいものでした。
ガイドの話では「満ち潮の時間は良い具合
にマングルの根が見えてきれいだ、引
き潮の時間はあまり時間ではないので、今
そのときは気にとめていなかったのですが、
帰りに同じ風景を見てその意味が分かりまし
た。林の大部分の土がボートの波に削られ
て、端から木が倒れ、林が削られてなくなっ
ているのです。引き潮の時には無惨に削られ
た林の跡が露出し、土がなくなり耐え切れな
くなってしまいました。」

この地域は、プーケットからの観光客もた
くさん来るので、プーケットの間に徐々に水
際が削られていっているものと思われまし
「ご存じのように、マングルの林は流れが
緩やかな泥がたまりやすい場所になっている
です。小さなボートと言ってもエンジン付きで
ボートが頻りに行き交う状況は森の存続に危
機的にも見える影響を及ぼしているのではな
いかと思います。」
この地域は、国立海洋公園に指定され、開
発は制限され、このマングルの林は表面的
には守られてはいますが、でもこのままの観
光の形を維持していれば、マングルの林が加
速的に消滅するの時間の問題でしょう。
自然は勿論ですが、観光資源を守り、ここ
に住む人たちの糧を守るためにも、早め早め
手を打つ必要を感じました。とは言っても
私も何も考えずツアーに参加し、ボートに乗
り、風景を楽しんだ観光客のひとり。無力さ
を感じながらも、日本の観光地においても同
ような状況があるのかもしれないと、こん
な報告をさせてもらいました。
(木村智子メダカ)

◆人・ひと・コト...だより
○藤枝市の横山浩史メダカ。専門の桐ダンス
の技術を生かした商品開発や「ギヤラリー
桐の蔵」を開設します。桐は最高です。

○豊岡村の千葉月江メダカ。昨年12月から元
氣村でパンを売る人のお手伝い。パンをつく
るって楽しい。私の好きな事ばかりでした。
私のパン買いにきて！。毎日はいないけど。
○浜松市の中村明男メダカ。いよいよ私も60
代。先輩諸氏の元氣印を目標に、今年もがん
ばるゾー！

○細江町の西原弘メダカ。新居も出来て最高
のお正月。仕事もエイサーもやるゾー。沖繩
はいい。ホントにいい！。今年も行く！！。も
ちろん奥さんと一緒です。

○森町の村松達雄メダカ。「森町」の語源は
「森の祭りの行われ」三島神社の鎮座する
大明神山(白幡大明神山・森・宮森)は、「森
町」の語源となった社。森の祭りの源はここ
にあり。祭りに多くのことを教えられた。お
祭りパンザイ！。祭りは日本の元氣だ！！。

○愛知県長久手町の横田浩臣メダカ。昨年は
50歳の影響で内モンゴルの調査旅行へ行
けず、国内の自然を少しだけ探る。石川県白
峰村の日本一大きなトチノキ。表側は立派だ
が裏側は合成樹脂材が注入され、痛々しい姿。
私も遠慮とともにあちらこちら痛み出した。
今年からは自らゆつたりしたい。と。

○浜松市企画課の堀野智浩メダカ。昨年結婚
しました。仕事と新婚生活が忙しくまだ一度
も出席しないが、行きます。必ず行きます。
○浜松の加茂光広メダカ。4月8日から始ま
る浜名湖国際花博で、草笛のパフォーマンス
します。浜名湖館で火・金の2日間です。ぜ
ひ立寄って下さい。

○雄踏町の藤田潤吉・久枝夫婦メダカ。チン
チンドンチンドンチンドン。「エー、ゆうとう
夢ちんどんでございませう」。『笑門来福』こ
としも大いに笑いましたよ！！。「まだおひとり
の方は、お相手を私がご紹介しますわ」とは
久枝メダカ。

○浜岡町(新御前崎市)の中島豊メダカ。昨
年暮れから自家製ビオトープ作りで励んで
水田の三角コーナーを漬して小さな池と島を
作った。セキシヨウなどを植える。純粋日本メ
ダカを放流して。後は自然にまかせよう。俺は
めだかの学校で泳ごうと。

○引佐町の名和紅・理代子夫婦メダカ。陶芸
と重画とガラス工芸と。宇宙歩子メダカも
6歳と大きくなりました。散歩しながら『工

房さんへいらしてください。

○森町の榊原淑友メダカ。昨年は春から異常
減収、秋以降も異常気象で野菜も果実も不作
農家にとっては厳しい一年。農協支店長とし
ても大変。我が家の無農薬お米もかなりの減
収。でもメダカ生には食べていたのだ。たくて
。12月の42回めだかの学校のお米は淑友
米。いやア、おいしかった。5月下旬には笹
ゆりが見られます。

○袋井市の大場敬子メダカ。昨年は教頭先生
をやらせていた。いろいろんな人と話ができ
ました。今年には体の調子が良ければ中国へ
語学留学したい。夢が広がります。

○天竜市の杉本浩メダカ。昨年の9月から乳
製品の宅配。コマンド・メディアの今の仕事
量では生活が大変、健康づくりと実益を兼ね
て週3回、宅配をはじめてたら本業も多忙と
なつて。でも当分の間は2足のワラジ。が
んばります。

○浜松市の水村春江メダカ。浜名湖花博で、
6月6日「2人の花咲き物語」のウエディン
グ。カップル募集です！。どうですか、お花た
ちが盛り上げてくれますよ。

○浜松市の峰須賀千賀子メダカ。浜松・冬の
蛸も終わり、関西風炭焼きうなぎ。うなぎの素
はうなぎ。お待ちしています。と。

○新居町の服部守孝メダカ。1月19日佐久間
町そば祭りでの「コマ」。『そば処北条峠』野田
山びこ会の皆さんからそば打ち指導。「うまい
うまいその調子」と乗せられて。逃げるに逃
げられず、至天ローカル版の取材に。「たより」
が出る頃には「こんにちは、ハットリです」
のお顔を頂いたバレンタイン。おもしろい打っ
たそばを頂いたバレンタイン。おもしろい打っ
たそば。松本芳廣、石野省三のそば職人メ
ダカからも参加していました。

○愛知県知立市(天龍村)の中野昌俊メダカ。
昨年、長野県に教育特区学校法人の申請をし
て、2004年に小中学校を設立する方向で
動いたが、資金調達に十分に向られず、
1年延期して、2005年4月開校に向けて準備
しています。宿泊型フリースクール。法
人どんぐり向方塾は、長野県教育委員会、天
龍村、天龍村小中学校と連携して運営してい
ます。心に傷を負った子ども達への「癒しの場」
として、農業、モノ作りなどの体験学習を主

体として「読み書き計算」調べる」と及び
「真心と思いやり」を進める予定です。不登
校児童・生徒の「癒しの場」としてがんばっ
ています。とのこと。

○浪合村の近藤庸平メダカ。昨年来から病院
へ入院していました。正月明けに無事退院し
ました。飯田市方面の知人らは「もう無理か
メダカの庸平は不死身ですヨ！」

もつともつと伝えたいのですが、紙面の都
合で今回はこれまで。ごめんね。

◆メダカ春秋

私は今、老人福祉施設で仕事をしています。
「社会で高齢者の介護を支える」として20
00年にスタートした介護保険制度。
当初は制度が浸透する心配されたが、利
用は予想を遙かに超えて広がっている。財政的
な行き詰まりが懸念されていた。高齢者
の介護は社会で支えられないということ、
介護保険の費用の増加、これもお金が足りな
い話である。なぜこのようなことになったの
か。老人福祉施設の現場にいるもの話とし
て聞いてほしい。
先ずは「社会で高齢者の介護を支える」と
いうことに課題がある。高齢者、親は基本
的には家族が看ることにある。しかし、家庭
の事情があるにせよ、介護保険制度の費用を多
く費やしている多くの老人福祉施設の入所実
態は、後継者等家族の看るべき者がいるのに
もかわらず、又お年寄りの意思にかかわら
ず、安易に施設に送り込んでいる向きがあ
る。これは家族のあり方など難解な問題があ
るにしても、施設利用者は常に「家に帰りたい
。」と叫んでいる。如何に施設が個室やマイ
トイレ等整備されても、家族と暮らす価値観
にまさるものはないのである。
又山間地の過疎の村では、さらに介護福祉
の課題が地域の最大の課題である。合併問題
にも大きな陰を落としている。在宅で老々介
護で悲鳴を上げていく現状がある。
私たちの村では、人口約2,300人、高齢
化率43%、2人に1人は65歳以上である。田
舎では、もう既に大勢の老人を看る余裕は無
い。
都市にいる後継者は今何を考えているのだ
ろう。
(南信濃村 玉置洋一メダカ)

☆引佐町の教育長に柴田宏祐メダカ。平成15年12月15日から引佐町の教育長に就任。昨年三月に三ヶ日町立西小学校を定年退職。住居は第二東名の関係で引佐町から浜松市初生に転居しましたが、前教育長が体調をくずして退職したことから任命される。市町村合併に伴う教育委員会の合併問題や小学校の児童数減少(川名小34名・田沢小51名・浜川小22名・久留女小15名)引佐町北部地域)による統廃合など課題も山積がらばって。

☆静岡新聞出版局から「スローナ気分まで生きてみたら」―知命男のモノローグ―。著者・山草人(さんそうにん)。この本、手にとってみると、何人かのめだかが泳いでいる。もちろん実名ではないですよ。なにをかくそう山草人はペンネーム。著者は川島安一メダカだった。自称しがないペンペン草のような人、川島安一メダカが日頃やっていいることや、それと同じように周りで泳いでいる人たちが書かれている。もしかしたらあなたのこと書かれてるかも。2月上旬ごろから県内の書店に並ぶ予定です。定価は千五百円。気になる人は書店で買い求めください。

☆三月下旬ごろいよいよそば店開業へーがんなる藤野利昭・はつえ夫婦メダカ。浜松市館山寺町のフラワーパーク南側少し入ったところ。お店の名前は「手打ちそば ふじ花」。建物の本体工事は大工さんだが、テーブル・椅子・のれんなどかなりのものはおふたりのオリジナル品。開店の時には、めだか生の皆様にはご案内状を差し上げます。いまましお待ちください。

☆三遠南情報誌「Ami」2004年新春号(2011号)発売。今回の特集は「石」。多くのメダカ生が執筆、または登場してい

ます。定価は五百円です。次回12号は、「はな」です。3月発行予定です。興味のある方は、053・484・4133 アミプランニング照井泰子メダカ。又は事務局バラメダカ053・545・0381までご連絡ください。

◆事務局だより

寒中お見舞い申し上げます。ことしは「申年」。あつちへちよこ、こつちへちよこ。こやかに顔を出して、赤いお尻をペンペンペン。かき言う私は「辰年」の64歳。8が8つ並んで後半からの運勢はどれも最高だ。事務局のリンデンバウムは平成8年8月8日OPENの8周年。8が4つ並んで、合わせて12個。末広がりの「いいこと」いっぱいありそう。さらば男の更年期!「いいこと」お裾分けするよ。ネギのよつて来て。ネギのない人は大根、ジャガイモ、白菜、タマネギ。それもない人はマル。OK!?

さて12月5日の43回めだかの学校―知的満足度を高めよう―と、4月8日からはじまる浜名湖国際園芸博にしようの授業。1時間目の吉岡徹郎先生の「園芸博のオモテ話」。時間になっても先生道に迷って見えず。時間割を変更して池谷俊博先生が1時間目を担当。専門の椿の花。世界には四百種類以上の椿があること。二時間目は落合啓二先生の「伝統の江戸園芸」。現物を見せての伝統江戸園芸館の見どころを熱く語る。三時間目にはやと間に合った吉岡徹郎先生は、「私は花のことは何も知らないが」と言いながら、パンフレットをみながら園芸博会場の見どころを紹介。三者三様の思い入れで園芸博への興味は倍増。通しのチケット」の方がいいよ」とバラメダカ。楽しみの給食の時間は「とらろ膳」をいっぱい食べて大満足。ワクワクドキドキの次回三役の揃い踏みは、校長鈴木哲朗。教頭は斉藤敏子。用務員は村木謙次。まじめな校長・教頭を支えるのは盛り上げ大好きな再登場の用務員。ナ

ントナント新校長。早々と大橋町代校長の手を握って事務局バラメダカに注意される始末。楽しきかな「めだかの学校」。よろしくお願ひします。

◆43回の職員会議を1月16日豊岡村元氣村「味里」で、鈴木哲朗校長を中心13名の職員で行いました。いつもの如く、なんやかやと言いつながらテーマは教育。それも「教育とは四里滅裂?」。一時間目は環境教育。「環境ならはままつ地球村の山ゆききふさんがいいよ」「彼女ストリートすぎないか」「ストリートで話してもいい話」「二時間目は「現職の校長がい。石野さん頼むよ」。石野さんだけじゃあ面白くないから渡辺さんをつけようよ」と、本人の前でひどいもの。修身「ふたりの心はカーブとシュート」。三時間目は校長から「食育がしい」というので、「富士の佐野さんはどうだい」「ムリだよ。出て来れないかもしれない」「じゃあ石川みつちゃんには?」「彼女いそがしいが決めておこう」と、家庭科「ぐるめフオーク糖原病」で決める。「めだかの学校伝言版」の原稿をまとめたところへ伊藤英雄メダカから電話。「佐野玲子ちゃん、やるって!」とのこと。急遽独断で変更することにした。(職員の皆様「めんね」)。テーマも「教育の迷走(?)」。自然から学ぶ教育とは?」にした。一時間目「直球」環境おとなの責務「子どもたちの未来のために」。二時間目「原風景の中のガキ大将」という名のリーダー(女のこもいたよ)。三時間目「ガンと闘う!」食べもの自然療法と現代医療「佐野玲子先生。教育に関する事柄を「自然」からみての三者三様の思い入れが聞かれるのは楽しいですね。特に佐野玲子先生は今、ガンとおつきあいいしなから、食物の重要性や庶民の知恵である自然療法、最先端の現代医療などを体験をして話してくれれます。第43回は3月5日、みなさんとお会いできるのを楽しみにしています。

◆10年史について―
2月中にはなんとかしましょう。と

は加藤修一編集長の話。本当はいいだしたつべの榊原幸雄メダカが原稿が書けず「男の更年期」と逃げていたためと、関京子メダカが忙しすぎて原稿がまとまらずが原因。ごめんなきさうい。二人とも反省していません。

◆今回もお礼とお詫びを!
今回も遅れてしまいました。あきらめてる?。そう言わないで、気持はあるんだけれど。ごめん。今回もお世話だけでした。石野省三メダカ、松本芳廣メダカ、溝口久メダカ、本島慎一郎メダカ、鈴木正士メダカ、玉置洋一メダカ、照井泰子メダカ、エヌビーネットの伊藤多恵子さん、ありがとうございました。感謝です。

◆各地のたよりの掲載について
情報をください。地域のイベント、あなたの活動など、どしどし送ってください。待っています。次回発行日は5月1日です。4月20日までには郵便かFAXで。事務局(FAX)053・545・0381。メールの方は、照井泰子あて Eメール/teini@netnet.co.jp

◆めだかの学校事務局
〒431-2533
静岡県引佐郡引佐町東久留女木472-1111
「リンデンバウム」内 榊原幸雄
※学舎「みどりの郷」は何もありません。連絡・お問い合わせは「事務局」まで。